

平成 27 年（2015 年）4 月 9 日

情報研シリーズ（丸善ライブラリー）最新刊 『おしゃべりなコンピュータ 音声合成技術の現在と未来』 発売開始

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（以下 NII、所長：喜連川 優、東京都千代田区）が監修する「情報研シリーズ」（丸善ライブラリー）の最新刊となる『おしゃべりなコンピュータ 音声合成技術の現在と未来』が本日発売開始となりました。



書名： おしゃべりなコンピュータ 音声合成技術の現在と未来
（丸善ライブラリー 情報研シリーズ）

著者： 発語機能を失った人の元の声の再現やオリジナル話者の声を使った翻訳の読み上げなど、音声合成・歌声合成研究の最前線で世界のトップを走る研究者 3 名と、軽妙な筆致のサイエンスライティングを得意とするフリーランス・ライター。

- ・山岸 順一（国立情報学研究所 准教授）
- ・徳田 恵一（名古屋工業大学大学院 教授）
- ・戸田 智基（奈良先端科学技術大学院大学 准教授）
- ・みわよしこ（フリーランス・ライター）

発行： 丸善出版株式会社

監修： 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所

定価： 760 円（税別）

「喉に手術で人工呼吸器を付けた私は、声が出せない。それでも、何度も講演をした。始めは家内が原稿を読み上げた。それが親切なチームが録音から私の声を再生。私の口調で新しい講演。聞いて嬉しい。夢のようだ。」（篠沢 秀夫＝推薦文より）

【目次】

- 第1章 「コンピュータの声」に囲まれた私たちの日常
- 第2章 歌うコンピュータ
- 第3章 「化ける」コンピュータ - 片思いの相手に話しかけてもらうには？
- 第4章 踏み越えるコンピュータ - 「声」の障碍と音声合成
- 第5章 話すコンピュータ - 言葉の壁を越える
- 第6章 おしゃべりなコンピュータの未来

【内容紹介】

舐めると他人とそっくりの声で話すことができる「声のキャンデー」が登場する『ドラえもん』や、喉に装着する小さな装置で声まで他人に変装してしまう『ミッション・インポッシブル3』――。多くの漫画や映画などで音声合成のシーンを見ることができます。音声合成の技術は、こうしたフィクションと現実世界のどちらが進んでいるのでしょうか。実は、現在の音声合成の技術は、フィクション作品で発揮されている想像力をはるかに超えたところにあるのです。

『この本は、音声合成に関する研究の「いま」を知っていただきたいという私たちの思いから生まれました。現在の音声合成は、いったい、どこまで進んでいるのでしょうか？ どんなふうにご利用されているのでしょうか？ どのような人の、どのような夢を現実にしてきたのでしょうか？ これから、どのような応用がなされていく可能性があるのでしょうか？ その応用は、未だ見ぬ将来をどのように変えていくのでしょうか？

では、一緒に、「音声合成」という世界への旅に出発しましょう。』（本書イントロダクションより）

【情報研シリーズ】

NII が推進している情報学に関する総合的研究の内容を一般の方々にもわかりやすく紹介し、読者の皆様に情報学をより身近に感じていただくため、平成17年（2005年）3月に発刊した『インターネットが電話になった』から始まったシリーズです。『おしゃべりなコンピュータ』は本シリーズの第19弾となります。

以上